

## 1 第2次自主行動計画の推進状況と課題

### (1) リデュース

#### <目 標>

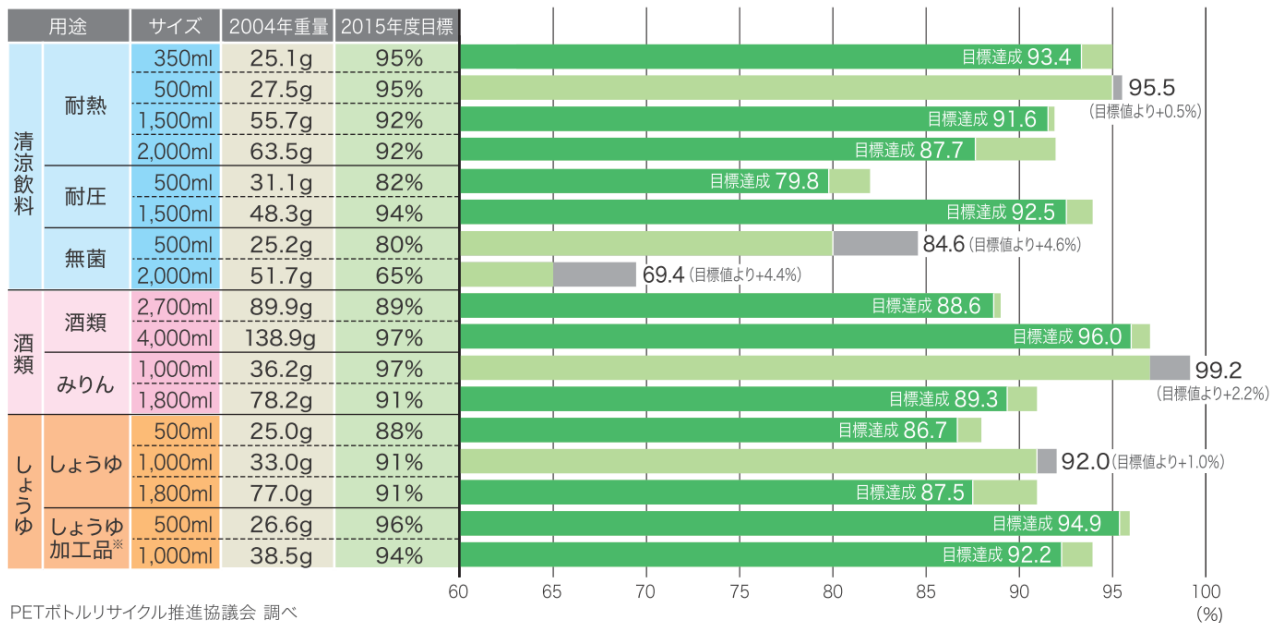
新たな技術開発を行い、主な容器サイズ・用途に個別の目標を定め、指定PETボトル全体で15%の軽量化（2004年度比）を目指す。

#### <2014年度／2004年度 実績>

主要な容器サイズ・用途計17種のうち16種で1～30%の軽量化が進み、12種で2015年度軽量化目標15%を達成しました。全体での軽量化率は15.6%でした。また、2006年度から2014年度までの累計削減量は517千トンとなりました。

ボトル種ごとの軽量化の詳細を下表に示します。

図1. 指定PETボトル・主要17種の軽量化目標と実績（2014年度）



## (2) リユース

PET ボトルのリユースについて調査・研究をおこなっており、結果、リユースは困難であるとの現状の判断は変わりません。

### 1) 安全性の問題

リターナブルPETボトルは予期せぬ汚染（悪意はなくとも使用済みPETボトルを農薬など、人体にとっての有害物質の一時保管に用いることなど）があった場合、PETボトルに吸着された汚染物質を、ボトル状態での洗浄技術・検査技術では100%除去することは困難です。

（参考）食品衛生学会誌 Vol.52, No.2

### 2) 環境負荷の問題

リターナブルPETボトルが、ワンウェイPETボトルより環境負荷が小さくなるのは、空ボトルの回収率が90%以上で、販売拠点から工場までの返送距離が100km未満という非常に限られた条件下でのみです。

（参考）環境省「ペットボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会」中間取りまとめ 2009年8月

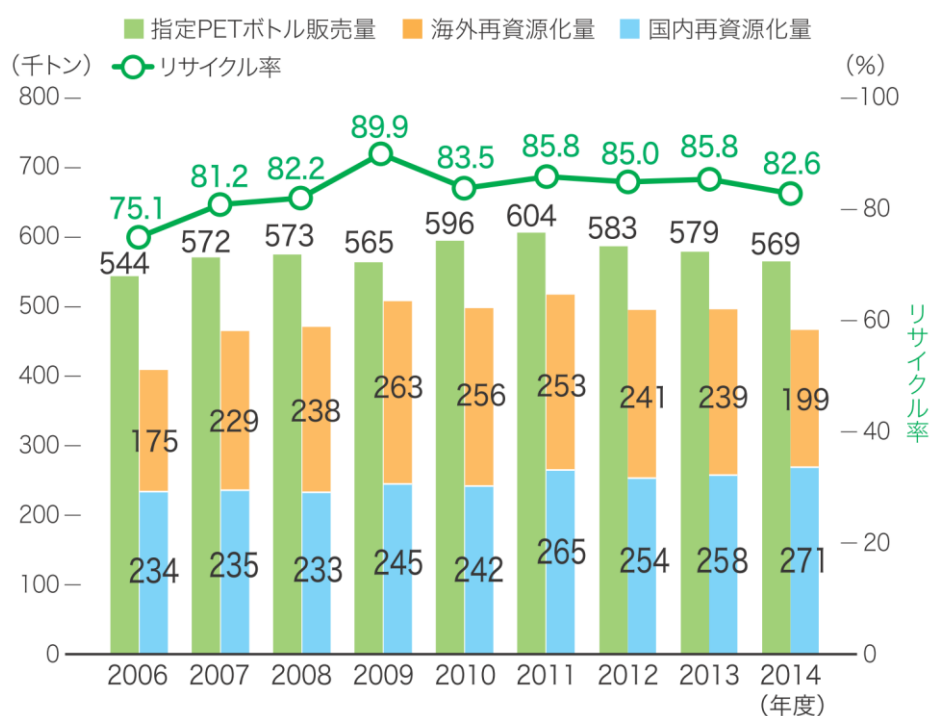
## (3) リサイクル

<目標：リサイクル率85%以上を維持>

2014年度のリサイクル率は82.6%と、4年ぶりに目標の85%に届きませんでした。

これまでのリサイクル率の推移を図2に示します。

図2 国内再資源化と海外再資源化



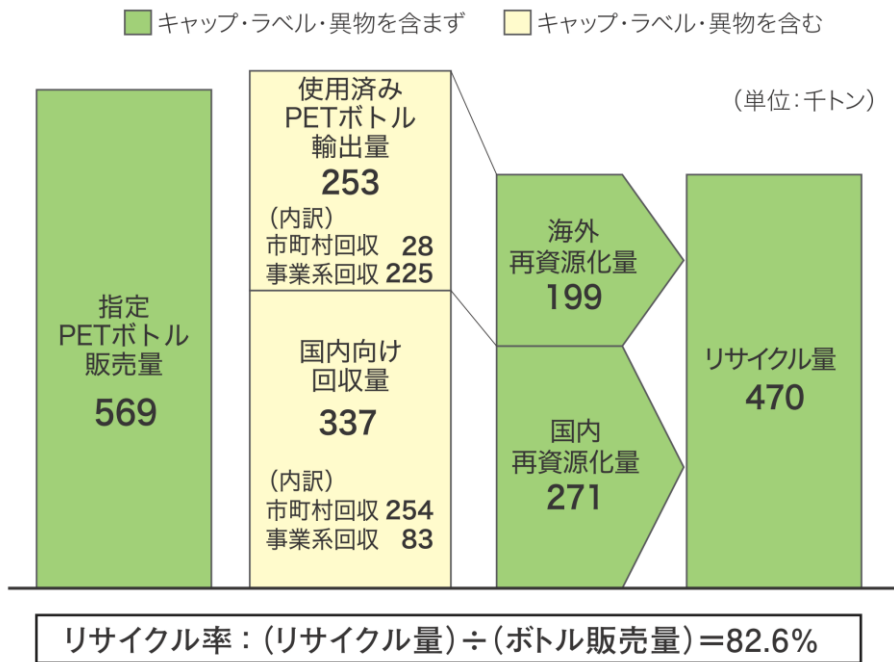
### ＜リサイクル率 82.6%の算出＞

2014年度のリサイクル率の「分母」となる指定PETボトル販売量（総重量）は569千トンでした。

一方、リサイクル率の「分子」となるリサイクル量は国内再資源化量271千トン、海外再資源化量199千トンの合計470千トンでした。

図3に示したようにリサイクル率は82.6%で、対前年度3.2ポイントの減少となりました。

図3. 回収・リサイクルの概要



これまでの回収率の分子となる回収量は、環境省発表の「市町村分別収集量」と推進協議会調査の「事業系回収量」から算出していましたが、この方法では増加している使用済みPETボトルの輸出量が十分に反映できませんでした。そのため2009年度より、財務省発表の「貿易統計」から調査推計した使用済みPETボトルの輸出量と推進協議会の調査による国内向け回収量を加えて実質的回収量を把握することにつとめました。

また、経済産業省の資源循環指標（2006年6月）には、資源循環の目標が「回収・再資源化率」として設定され、その達成を求めていることから、推進協議会は、この「回収・再資源化率」を「リサイクル率」とする試算を行ってきました。

### ＜つぶしやすい容器の開発＞

ボトルの軽量化に際しては、「持ちやすさ」「注ぎやすさ」とともに、使用後の「つぶしやすさ」を追求した容器設計を行い、飲用時から飲用後まで一貫した利便性を向上させる容器開発を行いました。

### ＜リサイクル容易性の向上＞

- キャップ、ラベルをできるだけ取り外し、簡易洗浄して分別排出することをホームページや広報誌などで自治体ならびに消費者へ広く啓発活動を行いました。
- 店舗販売されるボトルの自主設計ガイドライン適合性調査を実施し、不適合ボトルの改善依頼を輸入、販売会社へ要請してきました。2011年度-2014年度の実績は、16社から25銘柄について改善を行う旨の回答を得ました。

### ＜マテリアルフローの精度向上の調査・研究＞

- 事業系回収量の把握率アップを目指し、廃プラスチック中間処理業者に加え、プラスチックリサイクル事業者への調査ヒアリングを強化しました。2011年度-2014年度の間に、各年300社から1000社を対象としました。直近の2014年度では過去の調査結果を踏まえて470社余りに絞り込み、400社余りから回答を得ています。

## 2 PETボトルの第3次自主行動計画

### ＜次期5か年に向けた課題＞

我が国でPETボトルが世に出て40年ほどになりますが、今では市民にPETボトルが定着し、生活必需品となっています。こうした状況下、リデュース、リサイクル推進のための活動を充実させてきました。

今後の課題としては、PETボトルのマテリアルフローの点検・整備を行い、リデュース及びリサイクルによる環境負荷低減効果の見える化を検討し、3R活動の効果をよりわかりやすく示すとともに、より一層、推進するためのはげみとしたいと考えています。

### 2.1 3Rの推進目標

#### (1) リデュース

指定PETボトル全体で20%の軽量化を目指します。

これは、2004年度のボトル1本当たりの平均重量33.3gから、2020年度は24.4gを目指すこととなります。

#### ＜軽量化のための具体的施策＞

指定ボトル全体での軽量化20%を達成するために、主要用途別ボトル下記17種ごとに具体的な目標値（2020年／2004年）を設定し、軽量化を促進します。

- |          |  |
|----------|--|
| 【3%軽量化】  | 酒類 4000ml・みりん 1000ml                   |
| 【7%軽量化】  | 清涼飲料：耐熱 500ml・*しょうゆ加工品 500ml           |
| 【10%軽量化】 | 清涼飲料：耐熱 350ml                          |
| 【11%軽量化】 | 清涼飲料：耐熱 1500ml・耐圧 1500ml               |
| 【12%軽量化】 | みりん 1800ml・しょうゆ 1000ml・*しょうゆ加工品 1000ml |
| 【14%軽量化】 | 清涼飲料：耐熱 2000ml・酒類 2700ml               |
| 【15%軽量化】 | しょうゆ 500ml・しょうゆ 1800ml                 |
| 【22%軽量化】 | 清涼飲料：無菌 500ml                          |

- 【27%軽量化】 清涼飲料：耐圧 500ml  
【40%軽量化】 清涼飲料：無菌 2000ml  
(\*しょうゆ加工品 2 種の基準年度は 2008 年とする。)

## (2) リサイクル

### <リサイクル率>

引き続き、「リサイクル率 85%以上」の維持を目指します。  
また、リサイクル率集計の調査数値の精度向上を引き続き行っていきます。

### <リサイクル容易性の向上>

リサイクルを促進するため、次の取り組みを推進します。

- ・キャップ・ラベルをできるだけ取り外し、簡易洗浄して分別排出することの啓発活動
- ・自主設計ガイドラインの遵守徹底のための違反容器の定期的市場調査と改善要請

## 2.2 広報活動

消費者、自治体へ積極的に広報および啓発を行い、3Rの推進を図っていきます。

### (1) 広報・啓発活動

- ・年次報告書の発行と報道発表
- ・広報誌「RING」の発刊
- ・エコプロダクツ展等への出展
- ・全国のリサイクルプラザ等への啓発ツールや再利用品等の提供
- ・ホームページの充実
- ・3R改善事例集の発刊
- ・PET ボトル再利用品カタログの発刊
- ・メールニュース

### (2) 調査・研究活動

- ・中国等海外リサイクル事情の調査・・・回収 PET ボトルの海外輸出と海外リサイクルの状況